



▲昨年の五条川自然塾

五条川の恵を子どもたちにもたちに伝えたい

五条川自然塾

大口町の自然を育み、豊かな農作物をもたらしてきた五条川。春の桜並木、秋の田園など、五条川の水がもたらす美しい風景は多くの大口町民の心の拠り所となっています。

今回は、子供たちに豊かな五条川の自然の恵を伝えようと、大口町がおこなっている環境教育や、毎年夏休み（今年は8月5日(日)）に開催して今年で17回目を迎える「五条川自然塾」を特集します。

五条川の豊かな自然

五条川の源流は岐阜県多治見市の「北小木川」。多治見市を出発し、愛知県に入って「五条川」となります。犬山市（入鹿池）、大口町、江南市、岩倉市、北名古屋市を通過して清須市で新川と合流します。その全長は28・2km。うち大口町内は約8kmです。

今から65年ほど前、当時の村長社本鋭郎氏が皆に呼びかけ、周辺農家や国の反対を押し切り、私財を投じて大口村内の五条川沿いに桜の植樹をしました。美しい桜並木を大口村



の財産にとの思いからでした。さらに、その植樹活動を大口町外にも働きかけ、全長15km、約3500本の桜並木が続いています。そのうちの半数以上が大口町内にあり、町内の



▲五条川源流の北小木川（岐阜県多治見市）

6つの桜の保全団体が毎年草刈りなどに汗を流しています。団体の皆さんが力を合わせて守っている美しい桜並木が、毎春多くの花見客を呼び、大口町の代表的な風物となっています。

五条川には、桜並木以外にも豊かな自然がたくさんあります。生息する生き物は確認されているだけで約20種。昔はホタルも観測されていました。今もたびたび見かけるセキレイやカワセミは、多くの写真ファンを喜ばせています。

残念ながら、近年高度成長とともに、工場の排水やごみ問題により水質が低下し、ホタルを始めとした一部の生き物が消えていきました。

※桜の陰になり、農作物が育たなくなる、また、国の許可なしに植樹をしてはいけないなどの理由で。

大口町の環境教育

五条川の恵みを子どもたちに伝え、川の環境保全につなげようと、大口町ではさまざまな取り組みがおこなわれています。

平成29年度より大口町歴史民俗資料館で始動した「歴史文化教育事業」は、町内の小中学校のみなさんに郷土の歴史を知ってもらうプログラムを組んでいます。南小学校では、4年生の自然環境学習をテーマにした総合学習の授業に歴史民俗資料館学芸員が出張して五条川の歴史を教えています。戦前、小学校のプールが五条川だったことに、子どもたちはびっくり！ふんどし姿で気持ちよさ



▲昭和2年（1927）頃 秋葉橋



▲昭和13年 第二尋常小学校（北小）東の天然プール

そうに泳いでいる写真を見て歓声があがります。また、五条川の改修がおこなわれたのは昭和22年から26年のこと。それまでは、今より川が蛇行していて堤もなく、大雨によりたびたび越水し流域が水害に見舞われていました。堤防も桜もない五条川の写真に、子どもたちは驚くそうです。現在の整備された五条川からは想像もつきませんね。



▲昭和17～18年頃 第一尋常小学校（南小）

五条川自然塾

子どもたちへの環境教育として、平成14年より毎年8月の第1日曜日に開催されている「五条川自然塾」。『家族みんなで「泥んこ」、水あそび」楽しいよ!』を合言葉に、一人ワンコイン（500円）で家族みんなで夏の一日を思いっきり楽しめる行事として定着しつつあります。

会場はワークセンターを中心とした周辺の五条川、水田、総合運動場駐車場。五条川でのゴムチューブの川下りアスレチックや水田での泥んこあそび、水槽でのフナつかみなど、普段体験できないダイナミックな遊びを大口町内で楽しむことができます。空の下で思いっきり体を動かした後は昔なつかしい流しそうめん。水と竹を利用した外で食べる流しそうめん、夏の暑さも吹き飛ばします。余談ですが、一番人気のフナつかみ、町政施行40周年の平成14年の初回は、当時の北小学校のプールで鮎を放流して行ったそうです！

この行事を主催しているのは大口町NPO団体である「わくわくおおくち21」。平成12年、町の施策に住民活動の活性化を盛り込んだのを

きっかけに、住民によるグラウンドワークを体現する団体として立ち上がりました。設立当初に取り組んだ南小学校区に公園を作る「夢キャンパス2001」、北部中学校の農園作り、西小学校のビオトープ作りは、わくわくおおぐち21の活動の産物です。学校関係者、自営業者、商工会関係者、役員職員など異業種のメンバーたちがそれぞれの得意分野を生かして子どもたちへの環境教育という共通の目的をもってアイデアを出し合い、試行錯誤を繰り返しながら活動してきました。設立してから18年がたちましたが、現在は五条川自然塾、西小学校ビオトープの管理、五条川の桜の保全の3本の柱で活動しています。



今でこそ、大自然の中で泥んこになるのを楽しむ行事として定着していますが、始めた当初は「子どもが水を飲んでおなかをこわしたら?」「川や田んぼで足を切ったら?」など、心配はつきませんでした。それでも、子どもが外で遊ぶ場所が減少している今だからこそ、このような機会を作る意義があるという、メンバーの熱意によりこの企画が実現したのです。今ではわくわくおおぐち21のメンバー以外にも、大口町消防団、丹羽青年会議所、コミュニティワークセンター、そして数々の町内NPO団体の協力を得、団体同士がつながってひとつの行事を作り上げる「協働の場」としても機能しています。

※イギリス発祥の地域環境改善活動



取材にて

毎年300人の参加者を集めて盛大に開催される「五条川自然塾」。子どもたちはもちろん、大人も童心に帰って思い切り楽しめる大口町の夏の風物詩となっています。大人も子どもも、水で遊ぶ楽しさは共通なのではないでしょうか。「付き添いの親御さんも、ぜひ一緒に水に入ってみてほしいです。素晴らしいお子さんの表情が撮影できます」と、わくわくおおぐち21のスタッフ。「環境教育の他にも、親子のふれあいの場となることも大きな目標のひとつ。日ごろ忙しい親御さんも、地元で夏の思い出作りをしつつ、改めて大口町の豊かな自然に気づいてもらえれば。さらに、参加したお子さんが大人になってスタッフになったり、その方がお子さんを連れて参加してもらいたい」と熱い思いを語ってくれました。

今後の課題は、多くの年代にも参加してもらうこと。そのために、毎年中学生ボランティアにも活躍してもらっています。いろんな年代にそれぞれの形で行事に関わってもらい、

地域の活性化につながると思いますね。

もともとは、次世代に大口町の素晴らしい自然を伝え、守ってもらおうという気持ちから始まった五条川自然塾。毎年発展を続け、今では親子ふれあいの場、異世代交流の場、地域交流の場ともなっています。18年前に一歩を踏み出した有志のみなさんの勇気が豊かに実を結び、人々の心の豊かさの源流となっていると感じました。

